



耳原鳳クリニックの現在の様子



駐車場予定地

いつも鳳クリニック・友の会の活動をあたたかく支えていただき、本当にありがとうございました。新しいクリニックができてからの1年、地域のみなさまに「明るくて入りやすいね」「相談しやすいくなったよ」と声をかけていただくことも増え、スタッフ一同、とても励まされています。そして今回は、うれしいお知らせがあります。2026年5月に駐車場の完成し、鳳クリニックはついに「フルオープン」を迎えます。これまで建て替えの関係でご不便をおかけすることもありました。が、ようやく外来・在宅・地域活動がそろって動く、ほんとうの意味での完成形になります。

建替え中の仮設時期から地域のみなさまには、ずっと支えられ、たくさんの方の応援をいただきました。秋のひとときフェスタ、署名活動など、ひとつひとつの企画に寄せられた温かい力が、私たちの背中を押してくれています。本当にありがとうございました。

「5月、
駐車場が完成します」

鳳クリニック
フルオープン

工事中

ご迷惑をおかけしております

会務報告

11月度理事会（概要）

開催日時：2025年11月20日（木）午後5時～7時3分

出席：理事 27名
監事 3名

＜主な内容＞

◆報告

・拡大常任理事会、各種委員会概要

・健康友の会みはら、社保・平和のとりくみ

◆承認事項

・耳原鍼灸院の閉院とそれに伴う寄附行為の変更の承認

・看護職員確保推進本部会議報告

・無料低額診療の各事業所実績報告

・地域医療の崩壊をくい止めるための緊急行動について報告

・2025年9月度、10月度決算概要および上半期決算概要

・業務運営に関する検証結果の報告と討議

2026年は、鳳クリニックにとって新たなスタートの年。地域のみなさまと「もつとつながる」「もつとわかりやすい」クリニックをめざして、さらに取り組みをすすめていきます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

（耳原鳳クリニック 事務長 大迫めぐみ）



外観イメージ

民医連綱領には「共同のいとなみとしての医療と介護福祉をすすめる」と掲げられています。連載4回目の今回は、急性期医療に取り組み耳原総合病院での「共同のいとなみ」がどんな意味を持つのか、紹介します。

共同のいとなみとは何でしょうか。私たちは誰でも健康で生きる権利があり、医療介護を受ける権利が保障されています。患者さんは権利行使する主体者です。その考えに立つと、医療や介護は「提供する側」と「受ける側」に分かれるものではなく、患者さん、利用者さんが権利の主体となり、医療者、介護従事者が専門職として援助することで、共同で実現していくものと言えます。

耳原総合病院では、共同のいとなみの実践として、院所利用委員会、倫理委員会に健康友の会みはらの代表者が参加しています。友の会の委員の方から助言を受けたら、ときには設備改善について一緒に悩んだりしながら、病院運営に参画いただいています。

また、共同のいとなみは、病院外での活動にも広がっています。病院のリハビリテーション科は、長年友の会・大浜支部の班会で体操教室を行っています。活動が班の主体的な取り組みとして定着し、今では参加者が自ら体操を継続する場となりました。リハビリ職員は身体機能の計測や支援に回っています。

10月には、この経験を踏まえ、大仙西のコミュニティ棟みつばを会場にしたリハビリサロン企画「とものわ」が開催され、以前より多くの参加者が体操教室に取り組み場が生まれています。

このような取り組みを、病院の機能や規模に関わらず、これからも広げていきます。2028年春に完成予定の増築棟では、3階フロアに新しいリハビリエリアを設ける計画であり、その人らしい生活を取り戻す耳原のリハビリをさらに発展させていきたいと考えています。医療を「提供する」だけでなく、患者さん地域の方と一緒にこなう、それが耳原総合病院の目指す「共同のいとなみ」です。

（耳原総合病院事務長 川畑 望）



無差別・平等の急性期医療

地域に必要とされる医療をめざして

その4

一緒にこなう医療を広げるー
みみはらの
『共同のいとなみ』